

**製造業安全対策官民協議会**  
**第9回サブワーキンググループ（向殿 SWG）検討会**  
**議事要旨**

令和元年 5 月 16 日（木） 13：30～15：30  
安全衛生総合会館 8 階大教室

1 出席者

出席者名簿（資料1）のとおり

2 議事

今年度より中央労働災害防止協会 技術支援部長西田より委員交代の挨拶があった。  
会議冒頭、向殿主査より挨拶があった。

(1) リスクアセスメントの共通化手法の検討について

① 「意図的なルール違反・ヒューマンエラーをリスクアセスメントに反映させる手法」について、事務局より資料3-1、資料3-2、別添1、別添2、別添3、参考資料（非公開資料）の説明を行い、意見交換を行なった。主な内容は下記のとおり。

・リリースについて、どういった立ち位置でリリースするのか。

⇒中災防が官民協議会の向殿 SWG の成果として、広く利用の推奨としてリリースする予定である。

・官民協議会の向殿 SWG の名前は出てくるのか。その場合、リリースについて各団体に協議を踏まえコンセンサスを得た方が良いのではないか。

⇒次回の官民協議会全体 WG にて、回答を得てプレスリリースをすることとしたい。

・全体会議の結果として、官民協議会としてプレスリリースを行うのが良いのではないか。

⇒官民協議会プレスリリースを出したことがないため中災防がプレスリリースを出すのが一番無難だと考えている。

⇒官民協議会の名前は出しますが、中災防としては、広く様々な方にリスクアセスメントを使っていただきたい。キャンペーンとして全国安全週間、全国大会に向けて広く公に出すことが一つのアピールになる。次回の本会議のステップを踏まえて、ご迷惑をかけない形でリリースに向けて動く。

・プレスリリースは具体的にどのように発信するのか。記者會や団体への発信を想定しているのか。

⇒中災防の場合は記者クラブに配布し、事務局や問い合わせ先は検討中である。

・プレスリリースの際にテキストや研修の道筋をみえるようにしておいてはどうか。

⇒現在、テキストに落とし込むために原案等を作成中。関連する研修会においても案内しており学ぶことができるようにしています。

・資料3-1のポイント9-②について「足りる」の表現は変えた方がいい。ポイント10のQのアンサーについて、現場の作業員としては自ら「近道をします」とは言わない。作業員は意図的なルール違反を自ら回答することはしないのでは。

⇒もう少し管理者や知識のある人の方が二重丸になるということか。

・作業員が自らを評価はできないという議論が今まであった。管理者が行うとしても、管理者の普段のコミュニケーションによる。

⇒どうやって現場作業員が意図的なルール違反をしているかを、管理監督者から出してもらうか、なにかいいアドバイスはないか。

・管理監督者とはどのようなイメージか。職長や立場は様々だと思うが。

・この表ではなく、日ごろからコミュニケーションをとることが重要であることを、書いた方がよいのでは。

⇒普段からコミュニケーションや体制を重要にした方がよいという書き方で、資料 3-1 ポイント 10 の部分は案を作るので、皆さんから後日ご意見をいただき、向殿先生と最終的に決定したい。

・資料 3-1 ポイント 9-②について、「生産活動を阻害するような行為」とは何か。

⇒最初は悪意という言葉だったが、表現について議論をして変更した部分である。

・別添 1 の大文字 A 労働災害防止のため「の」の部分が入ってないのではないかと。初見の人に対しては難しい文章ではないかと。

・別添の文章について、「又は」で区切るところが読みづらい。

・別添 2 D(d)-2 は事業者が有資格者と思込んで？ということか？知らないというのは、事業者が知らないということか。

⇒意見を踏まえ、もう一度、誤解の無いように主語等を明確になるよう文章全体をチェックし改善する。

## ② 次のテーマについて

⇒参考資料（非公開資料）について、次のテーマを決めたい。現在 2 つ考えており、1 つはハザードの特定。2 つ目はリスク低減措置です。皆さんからご意見をお願いしたい。

・リスク低減措置について、事例等がないと協力を得られにくいのでは。

・ハザードの特定等について、パトロールで聞くが、具体的な手法の事例の回答が無い。

⇒当初、題材を決める際、各業界からアンケートに沿ってサンプルを送ってもらった経緯があった。リスクの見積もりについても、こういった手法や取り組みを行っているかアンケートを実施してよいか。

・明確な回答を得たことがないので、様々なリスク低減手法を共通化するのは価値がある。

⇒全体ではないが、リスクの見積もりは各業界から見積もりや管理法を一覧表にした。意図的なルール違反等は実施してないが、重要なことなので取り上げて行った経緯がある。ハザードの特定・同定の手法を各業界で比較したことはない。お手数おかけするが整理することで皆さんにとっていい情報収集になる。

・もれなくリスクを洗い出すことは永遠のテーマだと思うが、各業界の手法も興味がある。

・危険元の洗い出し、ハザードの特定をどう行っているのか、各業界を知りつつ、共通化手法があれば良い。

⇒次回以降、向殿先生とお話ししてテーマを議論し、皆さんに提案する。

## (2) 設備の点検補修の共通化について三菱ケミカルリサーチより

資料 4 について、3 年を通しての結果を PPT にまとめている。今年はアンケートを行わない。実地調査や調査結果の分析、パンフレットの作成を行う。そのほか資料に沿って調査結果の報告と協力のお願いについての発言があった。

## (3) リスクアセスメントキャンペーンについて

最後に、西田技術支援部長より、リスクアセスメントキャンペーン実施概要(案)について説明を行った。

(次回 SWG 会合 (第 10 回検討会) : 令和元年 8 月 28 日(水)10 : 00 ~ を予定)